

一年	国語	Gアップシート	読む3
----	----	---------	-----

組	番・氏名
---	------

★かぐや姫を信じさせるように朗読しよう

◇大野さんの学級では古典の学習で「竹取物語」を学び、「うその話をかぐや姫に信じ込ませるにはどのように話せばよいか」というテーマで朗読を工夫することにしました。大野さんは朗読するために次の場面を選び、文章を読みました。



「ここまでのあらすじ」

かぐや姫と結婚したいくらのちの皇子は、姫の求めた「蓬莱の玉の枝」の偽物を作って持参し、うその冒険談を話して本物だと信じ込ませようとした。次の文章はそのうその冒険談の、蓬莱山を探し当てた部分である。

「大野さんが朗読しようとした場面」

これやわが求むる山ならむと思ひて、①さすがに恐ろしくおぼえて、山のめぐりをさしめぐらして、二、三日ばかり、見歩くに、天人の②よそほひしたる女、山の中よりいで来て、銀の金鏡を持ちて、水をくみ歩く。これを見て、船より下りて、この山の名を何とか申す。と問ふ。女、答へて③いはく、これは、蓬莱の山なり。と答ふ。これを聞くに、④うれしきことかぎりなし。

問一 大野さんは ①さすがに恐ろしくおぼえて、②うれしきことかぎりなし の違いを朗読で表現しようと考えました。その表現の工夫を説明した次の文の空らん適切な言葉を選びなさい。その際、①③には語群Aから、②④には語群Bから選ぶこととする。

「朗読するために、登場人物の心情や行動に注意して読み、内容の理解を深める」

さすがに恐ろしくおぼえては ① が表現された部分だと思うので、朗読では ② を読みたい。
うれしきことかぎりなしは ③ が表現された部分だと思うので、朗読では ④ を読みたい。

語群A

ア ついに蓬莱山を見つけた喜び
イ ニセの玉の枝を持たされる恐れ
ウ 玉の枝を得ることができた感動
エ 見たこともない場所に来た不安

語群B

オ 低く、静かな声で
カ 平常の、特徴のない声で
キ 明るく、華やかな声で
ク 暗く、迫力のある声で

①				
②				
③				
④				

問二 大野さんはある部分の朗読について、次のように考えました。この朗読の工夫をしようと考えた部分を本文から探して、十五字程度で書き抜きなさい。(句読点を含む)

「大野さんの考え」

それまでの変化がなくて停滞した状態から突然変化があらわれたので、急いでいる様子を表現したい。そこで、この部分は前の部分から突然速くなるように読みたい。



問三 ～～線①②は歴史的仮名遣いで書かれています。これを現代仮名遣いに直しなさい。

「音読するために、文語のきまりや訓読の仕方を知る」

①	よそほひ		
②	いはく		

◇大野さんは、この後の場面も朗読した方が表現の効果が表しやすいと考え、朗読に次の文章を後半部分として追加することにしました。

その山 見るに、さらに登るべきやうなし。その山のそばひらをめぐれば、世の中になき花の木ども立てり。金・銀・瑠璃色の水、山より流れいであり。それには、色々の玉の橋渡せり。そのあたりに、照り輝く木ども立てり。その中に、この取りてまうで来たりしは、いとわるかりしかども、のたまひしに違はましかばと、この花を折りてまうで来たるなり。

問四 ～～線部の表現にはどのような効果があるか。ア～エの中から最も適切なものを一つ選びなさい。

「古文や漢文の特徴や効果をとらえ、朗読の仕方を考えている」

- ア 心情を表現した文が中心になって続くことで、皇子の気持ちを読み手に伝わりやすくなっている。
- イ 会話を要所で用いながら話を進めることで、読み手にテンポの良さを感じさせやすくなっている。
- ウ 山全体の情景からだんだん焦点を絞ることで、まるで真実の話であると感じられやすくなっている。
- エ ありえないほど美しい山の様子を描写することで、読み手が話の疑わしさに気付きやすくなっている。



【読む3 かぐや姫を信じさせるように朗読しよう】

問一 ①エ ②オ ③ア ④キ 問二 これを見て、船より下りて

問三 ①よそおい ②いわく 問四 ウ

解説 問一 朗読の工夫をする際には、登場人物の心情を読み方に反映させる方法があります。暗

い気持ちの時には暗く読み、明るい気持ちの時には明るく読むを基本に、それぞれの気持ちに合った読み方を工夫しましょう。

問二 情景描写を朗読に生かす際には、その描写が登場人物の心情にどういう影響を与えているのかを手がかりにすると考えやすくなります。この場面では「天人のよそほひしたる女」を見つけたことが皇子の心情に変化を与えています

問四 表現の効果を考える際には、その部分を読んで、読み手がどういう印象を受けるかに注意しましょう。この場合は、皇子が蓬萊山を見つけてから蓬萊の玉の枝を見つけるまでを、まるで自分が本当にそのように行動したかのような順番で表現することで、かぐや姫がだまされそうになった理由が読み手に伝わるようになっていきます。